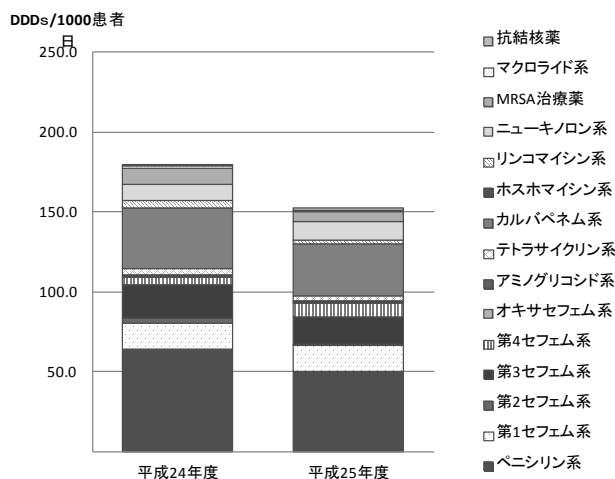


平成 25 年度 抗菌薬（注射薬）及び消毒薬の年間使用概況

1. 全入院患者での使用状況について

平成 25 年度（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）における抗菌薬使用量を 1000 患者日あたりの抗菌薬使用密度（antimicrobial use density：AUD）で集計し、抗菌薬の使用状況について前年度と比較調査した。

全病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別 AUD (DDD/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ABPC/SBT (ユナシン S)	39.6	32.3	-7.3
②	MEPM (メロペン)	27.6	29.1	+1.5
③	CEZ (セファメジン α)	16.5	16.2	-0.2
④	PIPC/TAZ (ゾシン)	17.1	13.8	-3.3
⑤	CTRX (ロセフィン)	15.7	11.4	-4.3

抗菌薬系統別 AUD (DDD/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ペニシリン系	64.3	50.2	-14.0
②	カルバペネム系	38.1	32.6	-5.5
③	第 3 セフェム系	21.0	17.2	-3.8
④	第 1 セフェム系	16.5	16.2	-0.2
⑤	ニューキノロン系	9.5	11.1	+1.6

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

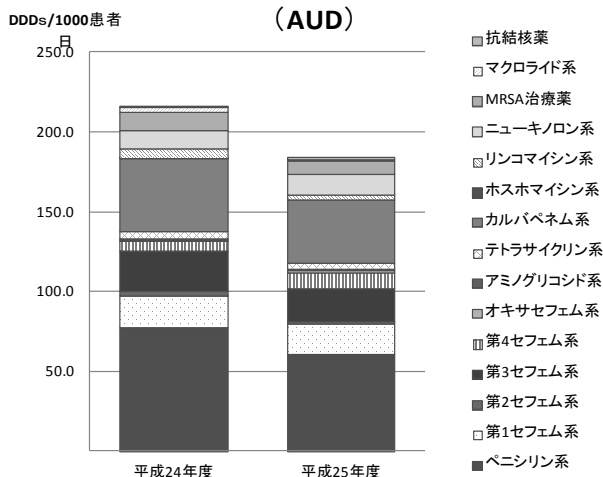
	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ペニシリン系	35.8%	33.0%	-2.8%
②	カルバペネム系	21.2%	21.4%	+0.2%
③	第 3 セフェム系	11.7%	11.3%	-0.4%
④	第 1 セフェム系	9.2%	10.7%	+1.5%
⑤	ニューキノロン系	5.3%	7.3%	+2.0%

全入院患者の年間 AUD は 152.3（前年比 -27.2）に減少した。薬剤別 AUD ではユナシン S 注（前年比 -7.3）が最も多く、次いでメロペン注の使用が多かった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比 -14.0）が最も多く、次いでカルバペネム系、第 3 世代セフェム系が多かった。使用比率はペニシリン系 35.8%（前年比 -2.8%）、カルバペネム系 21.4%、第 3 世代セフェム系 17.2%、第 1 世代セフェム系 16.2% であった。

2. 一般病棟患者での使用状況について

精神科患者を除く一般病棟患者の年間 AUD は 183.9（前年比 -31.6）に減少した。薬剤別 AUD、抗菌薬系統別 AUD、使用比率については全入院患者と同様の傾向であったが、AUD の値では全入院患者の場合よりも値が大きくなった。これは精神科患者では抗菌薬の使用頻度が少なく、一般病棟患者では抗菌薬の使用頻度が多いことを反映している。

一般病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別 AUD (DDD/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ABPC/SBT (ユナシン S)	47.5	38.5	-9.0
②	MEPM (メロペン)	33.1	35.2	+2.1
③	CEZ (セファメジン α)	19.8	19.7	-0.1
④	PIPC/TAZ (ゾシン)	20.5	16.7	-3.8
⑤	CTRX (ロセフィン)	18.8	13.7	-5.1

抗菌薬系統別 AUD (DDD/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ペニシリン系	77.2	60.2	-16.9
②	カルバペネム系	45.8	39.6	-6.2
③	第 3 セフェム系	25.1	20.8	-4.4
④	第 1 セフェム系	19.8	19.7	-0.1
⑤	ニューキノロン系	11.4	13.5	+2.1

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

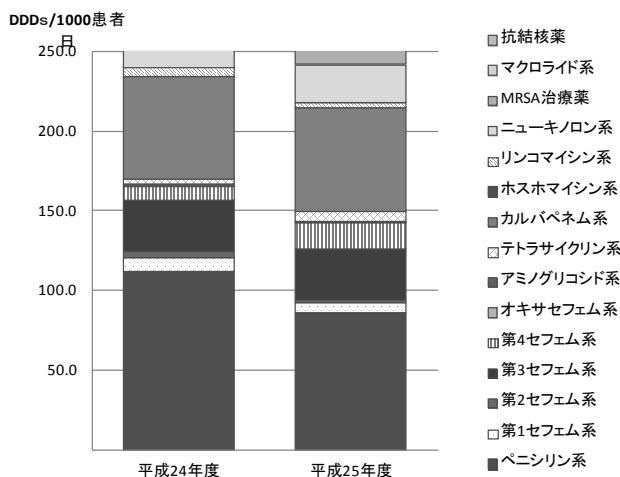
	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ペニシリン系	35.8%	32.7%	-3.1%
②	カルバペネム系	21.2%	21.5%	+0.3%
③	第 3 セフェム系	11.7%	11.3%	-0.4%
④	第 1 セフェム系	9.2%	10.7%	+1.5%
⑤	ニューキノロン系	5.3%	7.3%	+2.0%

3. 各診療科（入院患者）の使用状況について

A. 内科（入院患者）

内科の年間 AUD は 257.1（前年比 -22.8）に減少した。薬剤別 AUD ではメロペン注（前年比 +10.1）が増加し、次いでユナシン注、ゾシン注、クラビット注の使用が多かった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比 -25.6）が最も多く、次いでカルバペネム系、第3世代セフェム系の使用が多かった。使用比率はペニシリン系 33.3%（前年比 -6.4%）、カルバペネム系 25.5%、第3世代セフェム系 12.5%であった。

内科 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別 AUD (DDDs/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	MEPM (メロペン)	47.9	58.0	+10.1
②	ABPC/SBT (ユナシン S)	71.6	55.2	-16.4
③	PIPC/TAZ (ゾシン)	32.7	26.3	-6.4
④	LVFX (クラビット)	16.6	24.0	+7.4
⑤	CTX (ロセフィン)	23.4	20.8	-2.6

抗菌薬系統別 AUD (DDDs/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ペニシリン系	111.3	85.7	-25.6
②	カルバペネム系	64.4	65.7	+1.2
③	第3セフェム系	31.7	32.1	+0.4
④	ニューキノロン系	16.9	24.0	+7.0
⑤	第4セフェム系	9.1	16.5	+7.4

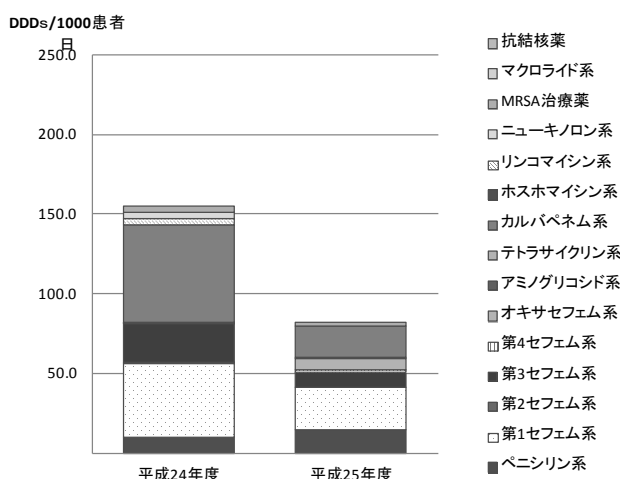
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ペニシリン系	39.8%	33.3%	-6.4%
②	カルバペネム系	23.0%	25.5%	+2.5%
③	第3セフェム系	11.3%	12.5%	+1.2%
④	ニューキノロン系	6.1%	9.3%	+3.3%
⑤	第4セフェム系	3.2%	6.4%	+3.2%

B. 外科（入院患者）

外科の年間 AUD は 82.0（前年比 -72.9）に減少した。薬剤別 AUD ではセファメジン α 注、メロペン注、ゾシン注、フルマリン注の順に使用が多かった。抗菌薬系統別 AUD では第1世代セフェム系（前年比 -19.7）が最も多く、次いでカルバペネム、ペニシリン系の使用が多かった。使用比率は第1世代セフェム系 32.3%（前年比 +2.5%）、カルバペネム系 23.7%（前年比 -15.7%）、ペニシリン系 17.5%であった。

外科 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別 AUD (DDDs/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	CEZ (セファメジン α)	46.2	26.4	-19.7
②	MEPM (メロペン)	34.6	19.4	-15.2
③	PIPC/TAZ (ゾシン)	4.8	12.1	+7.3
④	FMOX (フルマリン)	0.4	7.2	+6.8
⑤	SBT/CPZ (スルペラゾン)	15.6	3.7	-12.0

抗菌薬系統別 AUD (DDDs/1000 患者日)

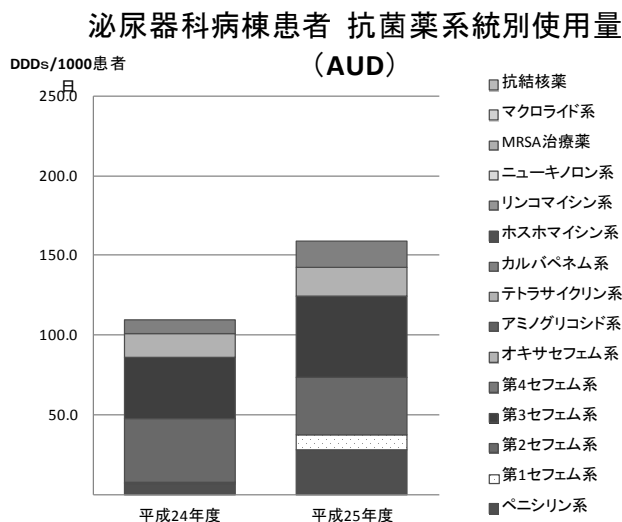
	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	第1セフェム系	46.2	26.4	-19.7
②	カルバペネム系	61.0	19.4	-41.6
③	ペニシリン系	9.9	14.3	+4.4
④	第3セフェム系	23.7	9.3	-14.4
⑤	オキサセフェム系	0.4	7.2	+6.8

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	第1セフェム系	29.8%	32.3%	+2.5%
②	カルバペネム系	39.4%	23.7%	-15.7%
③	ペニシリン系	6.4%	17.5%	+11.0%
④	第3セフェム系	15.3%	11.3%	-4.0%
⑤	オキサセフェム系	0.3%	8.8%	+8.5%

C. 泌尿器科（入院患者）

泌尿器科の年間 AUD は 158.9（前年比 +49.4）に増加した。薬剤別 AUD ではロセフィン注（前年比 +8.3）が最も多く、次いでパンスポリン注（前年比 -3.9）、ゾシン注（前年比 +19.3）の使用が多かった。抗菌薬系統別 AUD では第 3 世代セフェム系（前年比 +12.4）が増加し、第 2 世代セフェム系（前年比 -3.9）で減少、ペニシリン系（前年比 +21.5）で増加がみられた。使用比率は第 3 世代セフェム系 32.1%、第 2 世代セフェム系 22.7%、ペニシリン系 17.4%であった。



薬剤別 AUD (DDD/1000 患者日)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① CTRX (ロセフィン)	38.5	46.8	+8.3
② CTM (パンスポリン)	40.0	36.0	-3.9
③ PIPC/TAZ (ゾシン)		19.3	+19.3
④ MINO (ミノサイクリン)	15.0	18.4	+3.4
⑤ MEPM (メロベン)	8.7	16.5	+7.8

抗菌薬系統別 AUD (DDD/1000 患者日)

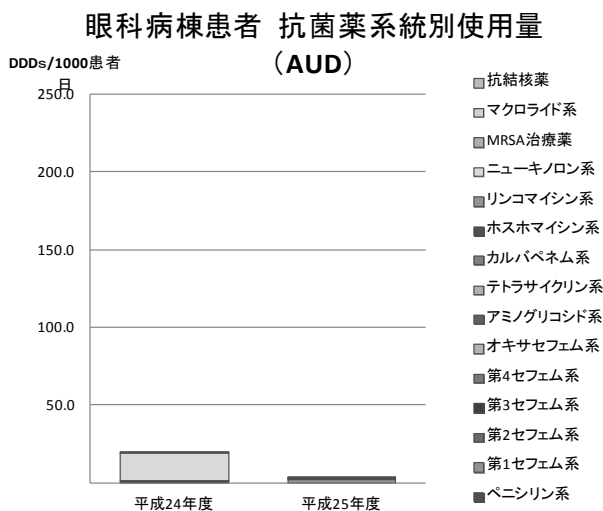
抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① 第 3 セフェム系	38.6	51.0	+12.4
② 第 2 セフェム系	40.0	36.0	-3.9
③ ペニシリン系	6.1	27.7	+21.6
④ テトラサイクリン系	15.0	18.4	+3.4
⑤ カルバペネム系	8.7	16.5	+7.8

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① 第 3 セフェム系	35.3%	32.1%	-3.2%
② 第 2 セフェム系	36.5%	22.7%	-13.8%
③ ペニシリン系	5.6%	17.4%	+11.9%
④ テトラサイクリン系	13.7%	11.6%	-2.1%
⑤ カルバペネム系	7.9%	10.4%	+2.4%

D. 眼科（入院患者）

眼科の年間 AUD は 3.5（前年比 -15.8）に減少した。薬剤別 AUD ではセファメジン α 注（前年比 +1.7）が増加した。抗菌薬系統別 AUD では第 1 世代セフェム系（前年比 +1.7）が増加し、使用比率は第 1 世代セフェム系が 47.9%、第 3 世代セフェム系および、MRSA 治療薬が 22.5%であった。



薬剤別 AUD (DDD/1000 患者日)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① CEZ (セファメジン α)		1.7	+1.7
② CAZ (モダシン)	0.8	0.8	+0.0
③ VCM (バンコマイシン)	0.8	0.8	+0.0
④ AMK (硫酸アミカシン)		0.3	+0.3
⑤			

抗菌薬系統別 AUD (DDD/1000 患者日)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① 第 1 セフェム系		1.7	+1.7
② 第 3 セフェム系	0.8	0.8	+0.0
③ MRSA 治療薬	0.8	0.8	+0.0
④ アミノグリコシド系		0.3	+0.3
⑤			

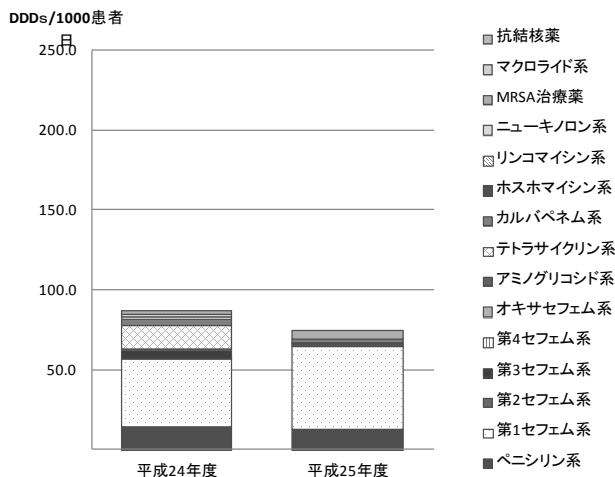
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① 第 1 セフェム系	0.0%	47.9%	+47.9%
② 第 3 セフェム系	4.0%	22.5%	+18.5%
③ MRSA 治療薬	4.0%	22.5%	+18.5%
④ アミノグリコシド系	0.0%	7.2%	+7.2%
⑤			

E. 整形外科（入院患者）

整形外科の年間 AUD は 74.7（前年比 -12.5）に減少した。薬剤別 AUD ではセファメジン α 注（前年比 +8.9）が最も多く、次いでユナシン注（前年比 +5.2）、バンコマイシン注（前年比 +3.7）が多かった。抗菌薬系統別 AUD では第 1 世代セフェム系およびオキサセフェム系が増加し、ニューキノロン系、カルバペネム系は減少した。使用比率は第 1 世代セフェム系 68.9%、ペニシリン系 17.2%、MRSA 治療薬 7.0% であった。

整形外科 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別 AUD (DDD/1000 患者日)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① CEZ (セファメジン α)	42.5	51.4	+8.9
② ABPC/SBT (ユナシン S)	1.0	6.2	+5.2
③ VCM (バンコマイシン)	0.4	4.1	+3.7
④ ABPC (ピクシリン)	12.5	3.1	-9.4
⑤ PIPC/TAZ (ゾシン)	0.4	2.8	+2.4

抗菌薬系統別 AUD (DDD/1000 患者日)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① 第 1 セフェム系	42.5	51.4	+8.9
② ペニシリン系	13.9	12.9	-1.1
③ ニューキノロン系	1.5		-1.5
④ カルバペネム系	3.8	2.3	-1.5
⑤ オキサセフェム系		0.9	+0.9

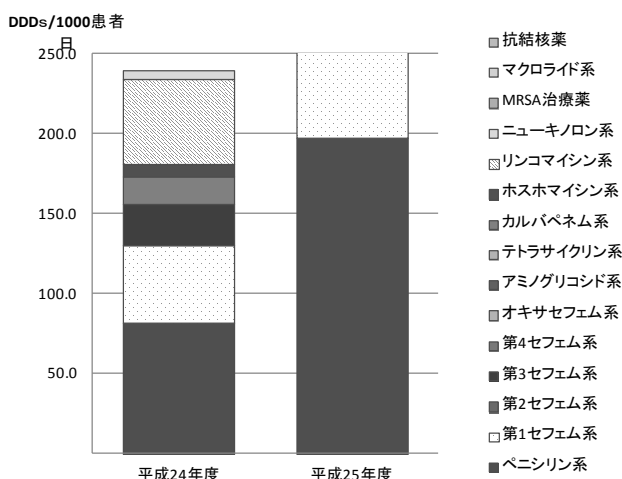
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① 第 1 セフェム系	48.8%	68.9%	+20.1%
② ペニシリン系	16.0%	17.2%	+1.2%
③ MRSA 治療薬	3.0%	7.0%	+3.9%
④ カルバペネム系	4.3%	3.0%	-1.3%
⑤ テトラサイクリン系	16.9%	1.5%	-15.4%

F. 耳鼻咽喉科（入院患者）

耳鼻科の年間 AUD は 383.2（前年比 +144.1）に増加した。薬剤別 AUD ではユナシン S 注（前年比 +124）が最も多く、次いでセファメジン α 注（前年比 +47.7）、ダラシン S 注（前年比 +18.8）が多かった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系、第 1 世代、リンコマイシン系、第 4 世代セフェム系が増加し、第 3 世代セフェム系（前年比 -16.7）は減少した。使用比率はペニシリン系 51.4%、第 1 世代セフェム系 25.1%、リンコマイシン系 18.7% であった。

耳鼻咽喉科 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別 AUD (DDD/1000 患者日)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① ABPC/SBT (ユナシン S)	56.8	180.8	+124.0
② CEZ (セファメジン α)	48.5	96.2	+47.7
③ CLDM (ダラシン S)	53.0	71.8	+18.8
④ PIPC (ペントシリン)	19.3	10.9	-8.4
⑤ CTRX (ロセフィン)	26.1	9.5	-16.7

抗菌薬系統別 AUD (DDD/1000 患者日)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① ペニシリン系	81.5	196.9	+115.3
② 第 1 セフェム系	48.5	96.2	+47.7
③ リンコマイシン系	53.0	71.8	+18.8
④ 第 3 セフェム系	26.1	9.5	-16.7
⑤ 第 4 セフェム系		8.6	+8.6

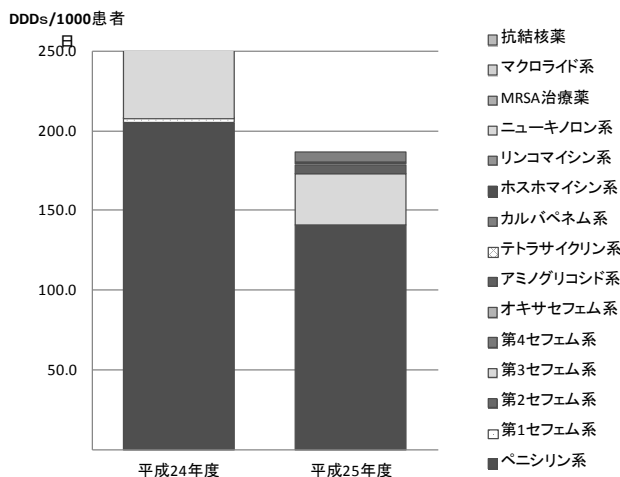
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
① ペニシリン系	34.1%	51.4%	+17.3%
② 第 1 セフェム系	20.3%	25.1%	+4.8%
③ リンコマイシン系	22.2%	18.7%	-3.4%
④			
⑤			

G. 小児科（入院患者）

小児科の年間 AUD は 186.9（前年比 -120.0）に減少した。薬剤別 AUD ではユナシン S 注（前年比 -28.5）が最も多く、次いでロセフィン注（前年比 -53.1）、ピクシリン注（前年比 -22.4）が多かったが、いずれも前年比では減少していた。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比 -64.1）、第 3 世代セフェム系（前年比 -52.3）が減少した。使用比率はペニシリン系 75.2%、第 3 世代セフェム系 17.5%であった。

小児科 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別 AUD (DDD/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ABPC/SBT (ユナシン S)	137.0	108.5	-28.5
②	CTRX (ロセフィン)	85.0	31.8	-53.1
③	ABPC (ピクシリン)	49.4	27.0	-22.4
④	MEPM (メロベン)	7.2	6.7	-0.5
⑤	PIP (ペントシリン)	18.2	4.9	-13.2

抗菌薬系統別 AUD (DDD/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ペニシリン系	204.6	140.5	-64.1
②	第 3 セフェム系	85.0	32.7	-52.3
③	カルバペネム系	7.2	6.7	-0.5
④	アミノグリコシド系	3.9	5.5	+1.6
⑤	テトラサイクリン系		1.5	+1.5

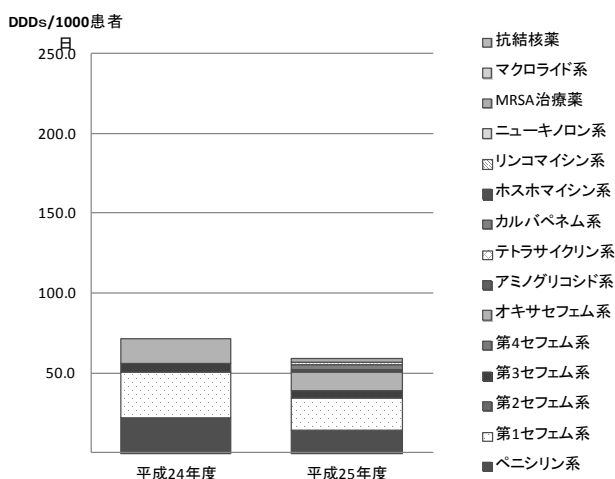
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ペニシリン系	66.7%	75.2%	+8.5%
②	第 3 セフェム系	27.7%	17.5%	-10.2%
③	カルバペネム系	2.4%	3.6%	+1.2%
④	アミノグリコシド系	1.3%	2.9%	+1.7%
⑤	テトラサイクリン系	0.0%	0.8%	+0.8%

H. 産婦人科（入院患者）

産婦人科の年間 AUD は 58.8（前年比 -12.7）に減少した。薬剤別 AUD ではセファメジン α 注（前年比 -9.2）が最も多く、次いでピクシリン注（前年比 -3.9）は減少し、フルマリン注（前年比 -3.7）が多かった。抗菌薬系統別 AUD では第 1 世代セフェム系、ペニシリン系、オキサセフェム系が減少した。使用比率は第 1 世代セフェム系 34.0%（前年比 -6.8%）、ペニシリン系 24.5%（前年比 -5.8%）、オキサセフェム系 20.1%（前年比 -1.6%）であった。

産婦人科 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別 AUD (DDD/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	CEZ (セファメジン α)	29.2	20.0	-9.2
②	ABPC (ピクシリン)	18.0	14.1	-3.9
③	FMOX (フルマリン)	15.5	11.8	-3.7
④	CTRX (ロセフィン)	5.1	4.2	-0.8
⑤	MEPM (メロベン)		3.1	+3.1

抗菌薬系統別 AUD (DDD/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	第 1 セフェム系	29.2	20.0	-9.2
②	ペニシリン系	21.7	14.4	-7.3
③	オキサセフェム系	15.5	11.8	-3.7
④	第 3 セフェム系	5.1	4.7	-0.3
⑤	カルバペネム系		3.2	+3.2

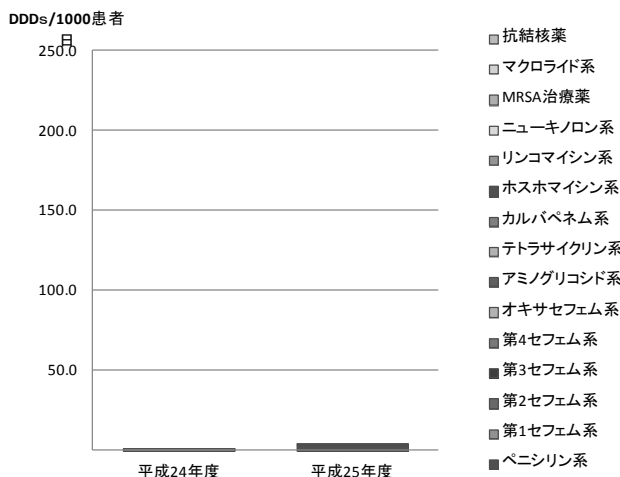
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	第 1 セフェム系	40.8%	34.0%	-6.8%
②	ペニシリン系	30.3%	24.5%	-5.8%
③	オキサセフェム系	21.7%	20.1%	-1.6%
④	第 3 セフェム系	7.1%	8.0%	+0.9%
⑤	カルバペネム系	0.0%	5.4%	+5.4%

1. 精神科（入院患者）

精神科の年間 AUD は 3.8（前年比 +3.3）に増加した。薬剤別 AUD ではユナシン注 3.3、ロセフィン注 0.5 であった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系 3.3、第 3 世代セフェム系 0.5 であった。使用比率はペニシリン系 85.9%、第 3 世代セフェム 14.1% であった。

精神神経科 抗菌薬系統別使用量 (AUD)



薬剤別 AUD (DDDs/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ABPC/SBT (ユナシン S)		3.3	+3.3
②	TRX (ロセフィン)	0.4	0.5	+0.2
③				
④				
⑤				

抗菌薬系統別 AUD (DDDs/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ペニシリン系		3.3	+3.3
②	第 3 セフェム系	0.4	0.5	+0.2
③				
④				
⑤				

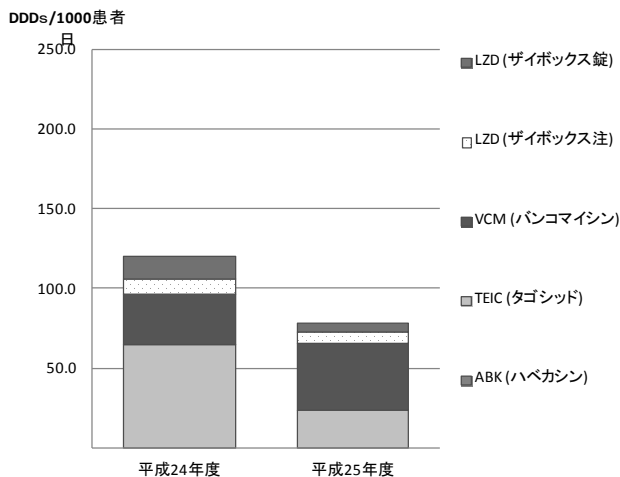
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ペニシリン系	0.0%	85.9%	+85.9%
②	第 3 セフェム系	72.0%	14.1%	-57.9%
③				
④				
⑤				

4. MRSA 治療薬の使用状況について

全入院患者における MRSA 治療薬の年間 AUD は 78.1（前年比 -41.5）に減少した。薬剤別 AUD ではバンコマイシン注 41.8（前年比 +9.9）、タゴシッド注 23.5（前年比 -40.8）、ザイボックス錠 5.4（前年比 -8.7）、ザイボックス注 7.4（前年比 -2.0）であった。バクトロバン鼻腔用軟膏は年間 5 本（前年度 5 本）であった。

全病棟患者 MRSA 治療薬使用量 (AUD)



薬剤別 AUD (DDDs/1000 患者日)

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
①	ABK (ハベカシン)			± 0.0
②	TEIC (タゴシッド)	64.3	23.5	-40.8
③	VCM (バンコマイシン)	31.9	41.8	+9.9
④	LZD (ザイボックス注)	9.4	7.4	-2.0
⑤	LZD (ザイボックス錠)	14.1	5.4	-8.7

抗 MRSA 外用薬

	抗菌薬	平成 24 年度	平成 25 年度	前年比
	バクトロバン鼻腔用軟膏	5.0	5.0	± 0.0

5. 消毒薬の使用状況について

全病棟の消毒薬の年間請求量はウエルピュア 90mL 15本(前年比 -13本)、ウエルピュア 500mL 371本(前年比 +2本)、ウエルセプト 500mL 0本(前年比 -3本)であった。

抗菌薬	平成24年度	平成25年度	前年比
ウエルピュア 90mL	28	15	-13
ウエルピュア 500mL	369	371	+2
ウエルセプト 500mL	3	0	-3

次にアルコール手指消毒剤と液体石鹸の年間請求量を使用回数に換算し、これを患者在院日数で除して“1入院患者に関わる病院スタッフが1日に行う手指衛生回数”を算出した。請求量から算出した手指衛生回数(手洗い+アルコール消毒)は全病棟 10.9回(前年度 6.9回)、2病棟 3.4回(前年度 1.5回)、3南 12.4回(前年度 7.3回)、4北 17.3回(前年度 10.2回)、4南 8.1回(前年度 7.3回)、5北 13.8回(前年度 10.1回)、5南 12.8回(前年度 6.2回)であった。

全体的には前年度よりも手指衛生回数の増加がみられるが、アルコールによる手指消毒回数だけで見ると、全病棟 1.7回(前年度 1.7回)、2病棟 0.3回(前年度 0.4回)、3南 1.1回(前年度 1.5回)、4北 2.1回(前年度 2.0回)、4南 1.4回(前年度 1.4回)、5北 2.8回(前年度 2.0回)、5南 2.4回(前年度 2.6回)であり、増加は見られなかった(減少している病棟も見られた)。

1 処置 1 手指衛生の観点からは、アルコール手指消毒剤での手指衛生回数の更なる増加が望まれる。

